あとがき

平成 27 年度から平成 29 年度を対象とする自己点検・評価実施報告書は，総合科学研究科評価委員会（関矢寛史，市川浩，山崎護（支援室長），和田正信，奥田敏統，河本尚枝，シュラルプ・ハンス・ミヒャエル，渡邊誠，海掘正博，有賀敦紀）と総合科学研究科支援室（総務・評価主担当）を中心として平成 30 年 7 月に着手し，この度ようやく完成することができました。本報告書の大部分は，研究科教務委員会，学部教務委員会，21 世紀科学プロジェクト委員会などの多くの先生方に原稿の執筆をお願いしました。また，教育活動，研究活動，組織運営などに関する多くのデータ収集と整理を研究科支援室の方々にお願いしました。これら多くの方々のご協力のおかげで，平成 30 年度内に作成を完了することができました。

本報告書の体裁は前回，前々回のものを踏襲しており，対象となる 3 年間に行われた本研究科・学部における教育活動，研究活動，地域貢献・情報発信及び管理・運営などについて総括しています。本学部の教育においては，平成 24 年度入学生の 10 プログラム制から平成 25 年度入学生の 1 プログラム制への変更に伴い，両プログラムの卒業生に対する教育活動が評価対象となっています。また，本研究科の教育と研究においては，3 部門ならびにそれらの融合の場となる 21 世紀科学プロジェクトにおいて，着実に成果を積み重ねてきたことが示されています。

また，平成 30 年度発足の総合科学部国際共創学科での教育活動は本報告書の対象となっていませんが，その設立準備活動は本報告書の対象期間に行われました。さらに前年度の実績に基づく教員の個人評価も平成 28 年度から開始されました。平成 26 年度に広島大学がスーパーグローバル大学創成支援事業（タイプ A:トップ型）に採択されてから，教育，研究，運営に改革が求められ，その過渡期となる本報告書の対象期間における活動が，それ以降の活動の評価においても重要な役割を果たすと考えられます。その意味でも本報告書が今後の発展に役立つことを願っています。

最後に，本報告書の作成にあたり，資料収集から原稿執筆までご協力くださった多くの教職員の方々に厚く御礼申し上げます。

平成 31 年 3 月
広島大学大学院総合科学研究科評価委員会
委員長　　関矢　寛史